



「応援される人」

校長 菅谷 和孝

37日間の夏休みも終わり、1年間で最も長い2学期が始まりました。

1学期の終業式では、この夏休みを使って、何かチャレンジしてみたい話をしました。生徒の皆さんは2学期につながる何か得たチャレンジをしてみましたか。夏休み期間中には、南海トラフに関連する地震、各地方における台風や線状降水帯による大雨の被害、ゲリラ雷雨などの自然災害が多く発生しました。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

さて、今年の夏季休業中には陸上部の関東大会入賞をはじめ、吹奏楽部の地区大会金賞、女子ソフトテニス部や水泳競技、柔道での県大会出場など、多くの生徒が活躍した姿をみる事ができました。一方で、残念ながら上位大会へ進むことができなかった生徒も、自分のもてる全てを出し切って表現した姿は素晴らしく、感動するものばかりでした。本番を迎えるまでの日々や当日のプレッシャーや緊張感など、本気で行ってきた者、一生懸命に努力した者にしかわからないことも感じたのではないのでしょうか。つい先日まで開催していたオリンピック・パラリンピックで活躍した選手たちも、国を背負いながら、私たちには考えられないプレッシャーとも戦いながら、大逆転を魅せてくれたり、最後まで諦めない姿を魅せてくれたりと、多くの感動を私たちに与えてくれました。競技後に多くの選手たちがインタビューに答えてくれましたが、ほぼ全ての選手に共通する言葉が「感謝」です。目標のメダルを獲得した選手も、目標としていた結果を得ることができなかった選手も、一緒に戦った仲間や相手に対してもそうですが、今まで支えてくれた方々、応援してくれた方々への感謝の思いを述べていました。生徒たちも、このスポーツの祭典を多面的・多角的に捉え、学び、成長するためのヒントにしてもらいたいと感じました。以前、学校集会でも「誰かのために頑張れる人は強くなる」「人はうまくいかない時や負けている時に本性がでる」。そして、「三流の人は自分のことだけ考えて行動できる人、二流の人は自分と相手のことを考えて行動ができる人、一流の人は自分と相手・周囲のことを考えて行動できる人。一流の生徒を目指していきましょう。」と伝えたことがありました。ぜひ、様々な体験を通じて、一流の考えや行動から目標を達成するとともに、応援される人でいてほしいと思います。

応援されるといえば、先ずもって藤久保中学校生として誇れるものが「藤中プライド(挨拶・返事・言葉づかい)」です。2学期が始まって早々、生徒会本部の発案で「あいさつ運動」を実施してくれました。私自身もできる限り登校時間の8時から約15分間、正門前で生徒の皆さんが登校するのを見守りながら「おはようございます」と挨拶をしています。生徒の皆さんはどのような挨拶を心掛けていますでしょうか。

・先に顔を見て笑顔で挨拶 ・立ち止まりながら正対して挨拶 ・小声で挨拶 ・会釈 ・下(地面)を向きながら相手を見ずに挨拶 ・前の人に隠れて挨拶 ・気づかない振り ・無視 ・その他

これは私たち大人も言えることですが、出来るのと出来ないとであれば、どちらの印象が良いでしょう。挨拶は「ソ」の音で始めると、相手に良い印象を与えられると言われており、この音は好感音ともいわれることがあります。また、話をする際、「ソ」の音から始まって「ド(低)」の音で終わると、抑揚が生まれ聞きやすくなるとも言われています。逆に「ド」の音から始まって「ド」の音で終わると暗く感じることが多いです。これからの時代、IT化が進んでも他者と挨拶を交わす場面は必ずあります。受験や就職、バイトをする際も、筆記試験がなくても面接はあります。得意・不得意はあるかもしれませんが、学校以外の様々な場面で「藤中プライド」を発揮し、より一層応援される藤久保中学校、藤久保中学生となれるよう、自分自身を高めてほしいと思っています。

最後に、地域からの声ですが、「信号のない横断歩道で車や自転車が止まって道を譲ってくれた時、止まってくれた方へ会釈をしてお礼を伝えられる生徒もいれば、譲るのが当たり前だと思っているのか、何の素振りもしない生徒もいるので指導してください」というご意見をいただきました。親や先生に見られているから意識してやるのではなく、無意識な振る舞いでTPOに応じた好感のもてるコミュニケーションがとれるよう、「心豊かな藤中生」。「当たり前を当たり前」にすることから、「当たり前以上を当たり前」にできる藤中生を目指してほしいです。家庭で躾け、学校で教え、地域で育てる。保護者の皆様、地域の皆様、2学期も「チーム藤久保」でよろしく願いいたします。